

## 3/25 試合に出場し経験を積む

創立10周年記念天拝少年剣道錬成大会

天拝少年剣道錬成大会の創立10周年記念大会が、実行委員会主催で開催されました。この大会は、より多くの少年剣士が試合に出る機会を得ることにより、技と心を鍛えることを目的に開催されています。

会場の農業者トレーニングセンターには、県内外から130チーム、小中学生約780人の剣士が一堂に会し熱戦が繰り広げられました。出場した小学校低学年から中学生までの選手は、稽古の成果を発揮しようと気迫のこもった試合を行っていました。



## 3/15 生えたカビで農作物の出来を占う

筑紫神社 粥占祭

市内原田にある筑紫神社では、毎年2月15日に粥を炊き、3月15日に取り出して生えたカビの量や色によってその年の吉凶や作物の出来を占う「粥占祭」が行われています。今年も宮司が取り出した粥を囲み、4人の判断員がカビの状態から判断を行いました。今年は風水害、害虫、流行病は兆しありとなりましたが、全般判断は「中」とされました。

この粥占祭と200年以上前から使われているとみられる粥鉢は、市の文化財に指定されています。



粥の中心を筑紫神社とし、カビの生え方で東西南北の吉凶を占います

## 3/25 山伏が語る修行の形

市民歴史ゼミナール「宝満山修験道～宝満山修験道の歴史と今」

今回の市民歴史ゼミナールは、鎌倉時代から連続と続く宝満山修験道に焦点を当て3回講座で開催しました。

3回目のこの日は、宝満山修験会の皆さんが宗派や山によって違うという、法螺(ほら)の吹き方や意味について実際に法螺を吹いて説明がありました。また、山伏の服装のいわれやその意味の説明、旅の行者が宝満山を訪れた際に山伏同士で行われる問答も披露され、参加者は興味深そうに話を聞いていました。



笠をかぶった旅の行者に問いかける宝満山の山伏

## 3/23 ゴルフで交流を深め、基金を贈呈

筑紫野市民チャリティゴルフ大会基金贈呈式

3月8日に開催された第39回筑紫野市民チャリティゴルフ大会では171人が参加し、参加者から約40万円の寄付金と収益がありました。

この日、大会会長の筑紫野市商工会熊川会長と大会名誉会長の藤田市長から「音楽ランド」と「筑紫野市「障害」児・者問題を考える会」の2団体に贈呈しました。贈呈を受けた音楽ランド代表の國友 美枝子さんは「音楽ランドの子どもたちの笑顔あふれるイベントに活用させていただきたい」と話していました。



「福祉団体に協力できれば」という気持ちで開催しました